

博報堂教育財団 こども研究所が小4～中3に今年一年のしあわせ度を聞いた「2025年の気分」調査の結果を発表

小中学生^{*1}の今年の“しあわせ点数”は82.7点。 2026年は2025年と比べて「変わらない」と思う小中学生が65.8%。

来年の世の中への期待は、「平和で戦争のない世界になる」「物価が下がる」こと。

*1：小中学生＝小4～中3生(以下同様)

公益財団法人博報堂教育財団の調査研究機関 こども研究所では、全国の小学4年生～中学3年生を対象に、子どもをとりまくさまざまなトピックスについて調査を実施しています。

今回は、「2025年の気分」調査と題して、小4～中3生の男女600名だけでなく、15～79歳^{*2}の男女700名にも同じ設問で、今年一年を振り返る調査を実施しました。昨年に引き続き2回目となります。

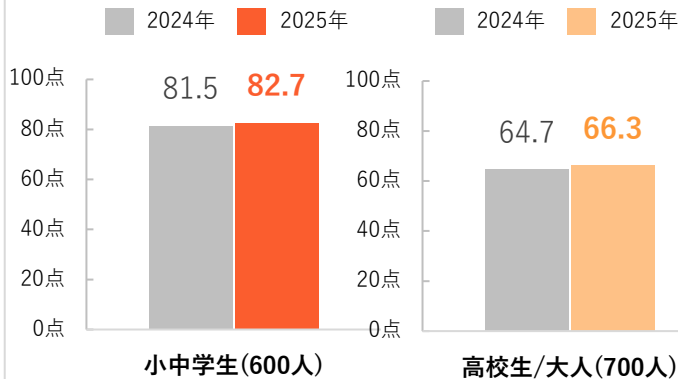
2025年の小中学生のしあわせ点数の平均点は、82.7点。高校生/大人の66.3点と比較して+16.4点高い点数です。

来年2026年の世の中は今年と比べてどうなると思うか聞いたところ、小中学生の65.8%は今年と「変わらない」と回答しました。今年よりも「良くなる」と回答したのは、小中学生、高校生/大人とも3割程度。「悪くなる」と回答した小中学生は7.0%で、高校生/大人の18.7%より-11.7pt低い値でした。

来年2026年の目標やこうなってほしいという期待を〈自分自身や身の回りのこと〉〈社会や世の中のこと〉に分けて自由回答で聞いたところ、小中学生の〈社会や世の中のこと〉では、昨年に引き続き「戦争をなくしてほしい」「世の中が平和であること」といった平和を望む声が多く、世界の紛争がいまだに収束せず長期化している現状が感じられます。ただ、平和や戦争終結に関する回答は昨年より数が減少し、一方で、「物価が下がってほしい」など物価高に関する回答は昨年より多く見られました。

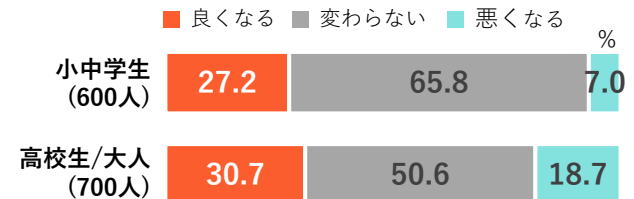
*2：本リリース内では「高校生/大人」としています。15歳に中学生は含まれませんが、15～17歳には学生以外も含まれます。

Q. 今年一年、あなたは自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じましたか。
「すごくしあわせ」を100点、「まったくしあわせではない」を0点としたときに、100点満点で教えてください。



※小数第2位を四捨五入しているため、合計値は100%にならない場合があります。

Q. 来年2026年の世の中は、今年と比べてどうなると思いますか。



Q. 来年2026年にやりたいことや目標、こうなってほしいという期待や願望はありますか。以下のことについて、どのようなことでも構いませんので教えてください。
《社会や世の中のこと》

小中学生(600人) 上位3項目

社会や世の中のこと		回答件数 ()内2024年
1	平和で戦争のない世界になる	101 (146)
2	物価が下がる	75 (44)
3	景気が良くなる	33 (29)

「2025年の気分」調査結果のポイント

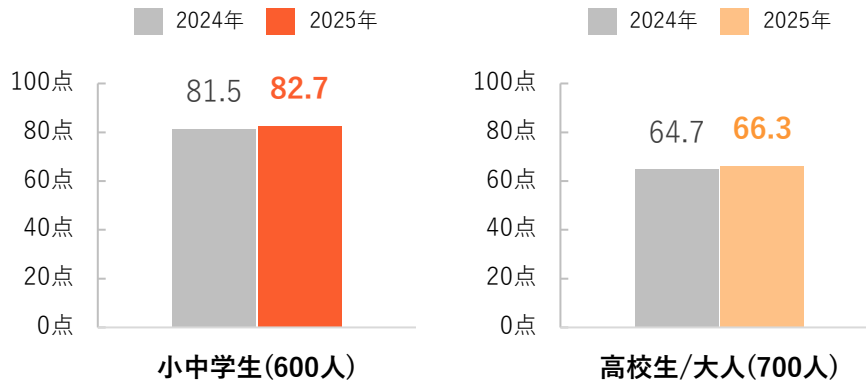
- 2025年のしあわせ点数の平均点は、小中学生が82.7点。高校生/大人が66.3点。
- 2025年の最も心に残ったできごとは、小中学生が「家族や親せきとの旅行」。高校生/大人は「選挙・首相交代・政治関連」。
- 2025年の最も心に残ったできごとをオノマトペでいうと、「わくわく」「やったー」「うきうき」。
- 2026年の世の中は、2025年と比べて「変わらない」と思う小中学生が65.8%。
- 2026年の世の中に対する小中学生の期待、願望は「平和で戦争のない世界になる」「物価が下がる」こと。

1. 2025年のしあわせ点数の平均点は、小中学生が82.7点。高校生/大人が66.3点。

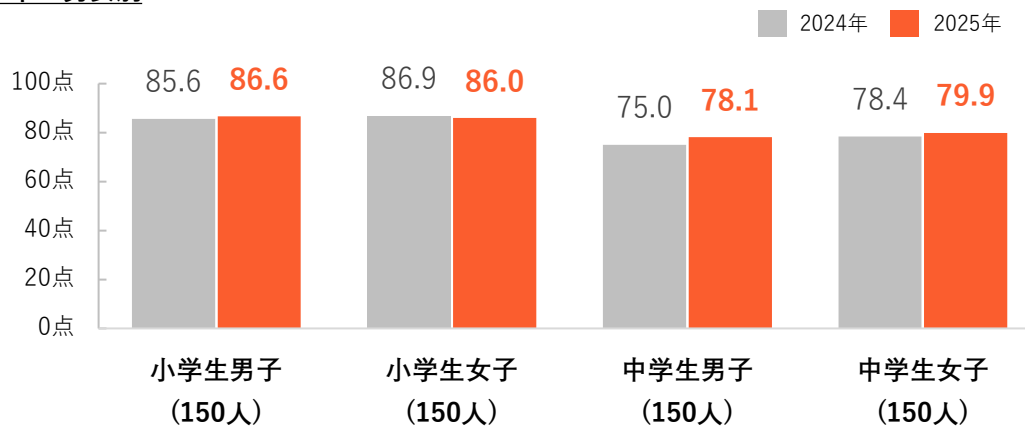
- 2025年の一年間、自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じたかを0～100点満点で聞いたところ(しあわせ点数)、小中学生の平均点は82.7点、高校生/大人は66.3点。小中学生の平均点は、高校生/大人と比較すると+16.4点高い点数でした。
- 小中学生、高校生/大人のいずれも、平均点は昨年よりわずかに高く、小中学生が昨年比+1.2点、高校生/大人が昨年比+1.6点でした。
- 小中×男女別では、小学生が男女とも85点以上。4層中最も低い中学生男子でも78.1点でした。

Q. 今年一年、あなたは自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じましたか。
「すごくしあわせ」を100点、「まったくしあわせではない」を0点としたときに、100点満点で教えてください。

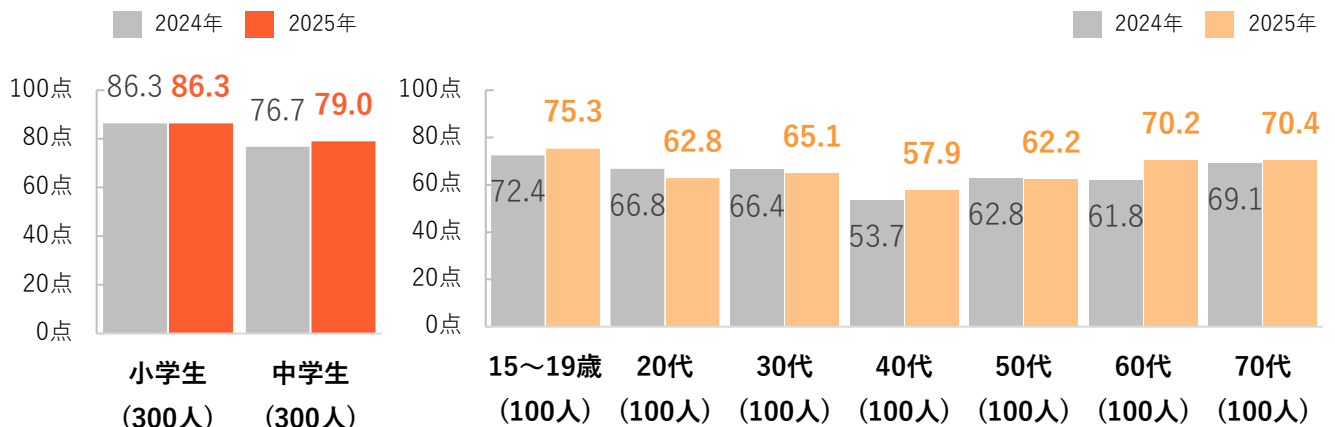
全体



小中×男女別



小中別・年代別



2. 2025年の最も心に残ったできごとは、小中学生が「家族や親せきとの旅行」。高校生/大人は「選挙・首相交代・政治関連」。

- 2025年で心に残ったできごと(5つまで)を自由回答で挙げてもらい、その中で最も心に残ったできごとを聞いたところ、小中学生は「家族や親せきとの旅行」が最多。続いて「学校の修学旅行・課外授業」で、ほとんどが「修学旅行」ですが、「遠足」「職業体験」「自然教室」という回答もありました。
- また、小中学生で“最も心に残った”として今年新たに挙がったできごとは、「大阪・関西万博」「クマの出没」についてで、それぞれ14件の回答がありました。
- 小学生は男女とも「家族や親せきとの旅行」、中学生は男女とも「学校の部活・クラブ」にすることが最多。
- 高校生/大人は、「選挙・首相交代・政治関連」が多く、具体的には高市早苗首相に関するできごとで、「総理大臣交代」「女性総理誕生」など、今年は政治の歴史的転換が印象深く、心に残ったようです。

Q. (前の設問で回答した)この一年間の心に残ったできごとのうち、最も心に残っているできごとはどれですか。

小中学生 (600人)

上位10項目		回答件数
1	家族や親せきとの旅行	86
2	学校の修学旅行・課外授業	77
3	学校の部活・クラブ	54
4	学校のスポーツ系行事	43
5	学校の文化系行事	27
6	テーマパーク	24
7	遊び・ゲーム	23
8	表彰・受賞・優勝・代表	20
9	友だちや親せきと遊んだ・会った	19
10	大阪・関西万博	14
10	クマの出没	14

高校生/大人 (700人)

上位10項目		回答件数
1	選挙・首相交代・政治関連	67
2	家族や親せきとの旅行	62
3	仕事・転職・アルバイト	35
4	(自分の)体調・病気・ケガ・事故	32
5	趣味・推し	29
6	物価高・国内経済関連・米騒動・米不足	25
7	遊び・ゲーム	20
8	大谷翔平選手の活躍	19
8	妊娠・出産・家族が増えた・育休	19
10	クマの出没	18

小学生男子 (150人)

上位5項目		回答件数
1	家族や親せきとの旅行	27
2	学校のスポーツ系行事	18
3	学校の修学旅行・課外授業	16
4	学校の部活・クラブ	11
5	遊び・ゲーム	9

小学生女子 (150人)

上位5項目		回答件数
1	家族や親せきとの旅行	33
2	学校の修学旅行・課外授業	27
3	テーマパーク	11
4	学校のスポーツ系行事	7
4	クマ出没	7

中学生男子 (150人)

上位5項目		回答件数
1	学校の部活・クラブ	22
2	学校の修学旅行・課外授業	17
3	家族や親せきとの旅行	12
3	学校のスポーツ系行事	12
5	選挙・首相交代・政治関連	7
5	友だちや親せきと遊んだ・会った	7

中学生女子 (150人)

上位5項目		回答件数
1	学校の部活・クラブ	18
1	学校の文化系行事	18
3	学校の修学旅行・課外授業	17
4	家族や親せきとの旅行	14
5	学校の入卒業(式)・進級	8

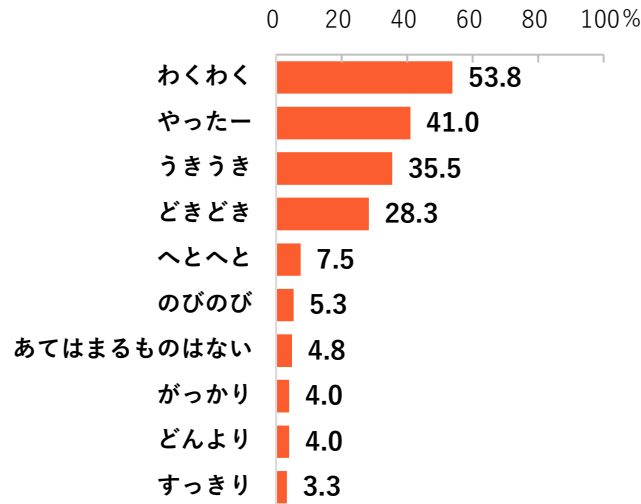
※「特になし/わからない」を除く

3. 2025年の最も心に残ったできごとをオノマトペでいうと、「わくわく」「やったー」「うきうき」。

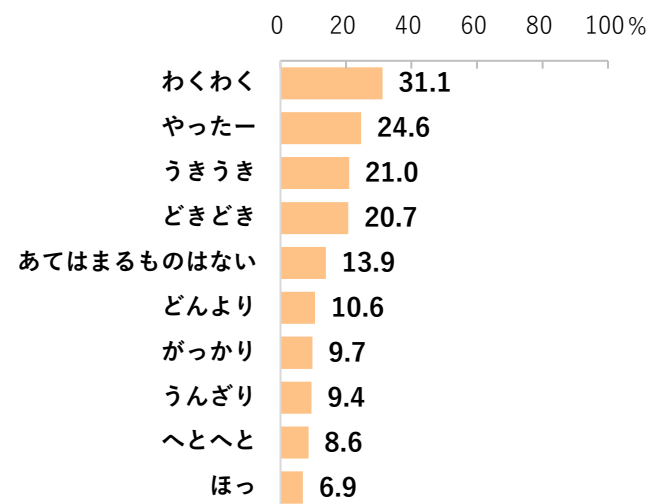
- 2025年で最も心に残ったできごとについて、どんな気分になったかをオノマトペで回答してもらいました（気分オノマトペ）。
- 小中学生、高校生/大人は4位まで同じで、1位は「わくわく」。続いて「やったー」「うきうき」「どきどき」。小中学生は半数以上が「わくわく」と回答しました。
- 小中学生の5位は「へとへと(7.5%)」ですが、4位の「どきどき(28.3%)」と大きく差があります。

Q. この一年間で最も心に残っているできごとで、あなたはどんな気分になりましたか。（3つまで）

小中学生（600人）



高校生/大人（700人）

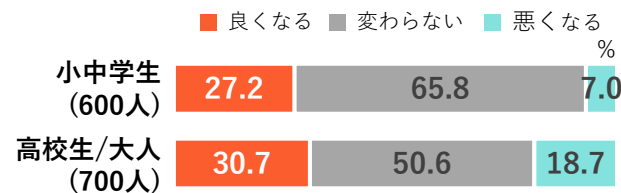


4. 2026年の世の中は、2025年と比べて「変わらない」と思う小中学生が65.8%。

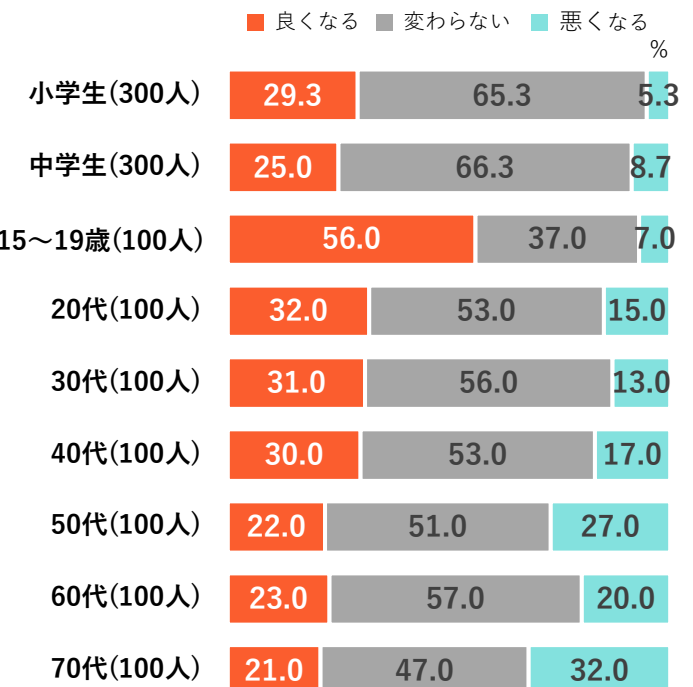
- 2026年の世の中は、2025年と比べてどうなると思うかたずねたところ、「変わらない」と回答した小中学生は65.8%で、高校生/大人の50.6%より+15.2pt高い値です。
- 「良くなる」と回答したのは、小中学生、高校生/大人とも3割程度。「悪くなる」と回答した小中学生は7.0%で、高校生/大人の18.7%より-11.7pt低い値でした。
- 小中×男女別では、「良くなる」と答えた小学生男子が4層中最も高く34.0%。
- 小中別・年代別では、15～19歳の「良くなる」と回答した人が、他の年代よりも突出して高く、56.0%でした。

Q. 来年2026年の世の中は、今年と比べてどうなると思いますか。

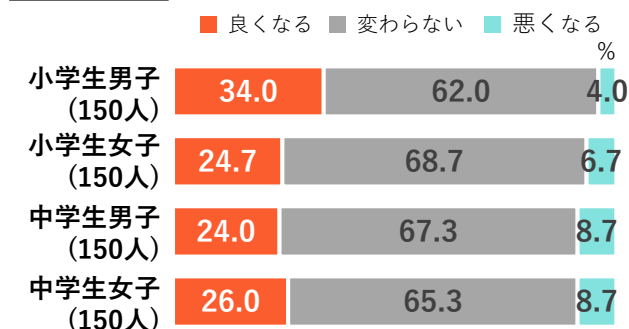
全体



小中別・年代別



小中×男女別



※小数第2位を四捨五入しているため、合計値は100%にならない場合があります。

5. 2026年の世の中に対する小中学生の期待、願望は「平和で戦争のない世界になる」「物価が下がる」こと。

- ・ 来年2026年の目標や願望を自由回答できいたところ、小中学生の〈自分自身や身の回りのこと〉では、「勉強をがんばる」「テストで100点をとる」といった勉強に関することが最も多く、次の「希望の高校に受かる」などの「入試合格」をあわせると4割が勉強や学校に関係することを挙げました。
- ・ 小中学生の〈社会や世の中のこと〉では、昨年に引き続き「戦争をなくしてほしい」「世の中が平和であること」といった平和を望む声が多く、世界の紛争がいまだに収束せず長期化している現状が感じられます。
- ・ ただ、平和や戦争終結に関する回答は昨年より数が減少し、一方で、「物価が下がってほしい」など物価高に関する回答は昨年より多く見られました。
- ・ 高校生/大人の〈自分自身や身の回りのこと〉では「自分自身や家族の健康」が最多。〈社会や世の中のこと〉で最も多かったのは「物価が下がる」ことについてで、昨年よりも回答件数が増えました。

Q. 来年2026年にやりたいことや目標、こうなってほしいという期待や願望はありますか。

以下のことについて、どのようなことでも構いませんので教えてください。

1.自分自身や身の回りのこと 2.社会や世の中のこと

小中学生（600人）上位5項目

自分自身や身の回りのこと		回答件数 ()内は2024年	社会や世の中のこと		回答件数 ()内は2024年
1	勉強や学校生活をがんばる/成績アップ 「勉強をがんばる」「テストで100点をとる」など	174 (171)	1	平和で戦争のない世界になる 「戦争をなくしてほしい」「世の中が平和であること」など	101 (146)
2	入試合格 「希望の高校に受かる」「受験勉強を頑張る」など	83 (84)	2	物価が下がる 「物価が下がってほしい」「お米が安くなってほしい」「お菓子が高い」など	75 (44)
3	スポーツ(ダンス含む)の上達や大会出場 「サッカー部のレギュラーになること」「ダンスの学校でトップを目指す」など	55 (71)	3	景気が良くなる 「景気がよくなってほしい」「お金に余裕が出る」など	33 (29)
4	精神的に充足する 「楽しく過ごしたい」「成長したい」など	33 (26)	4	自然災害がない/地球温暖化、環境問題の改善 「夏が暑すぎないこと」「ゴミを減らす」など	28 (34)
5	行動の目標や努力 「将来的な夢に近づけるよう努力する」「忘れ物をなくす」など	24 (18)	5	政治が良くなる 「高市総理に頑張ってほしい」「女性首相が誕生したので続いてほしい」など	17 (10)
-	特になし・わからない	71 (62)	5	クマの被害がなくなる 「クマが出ないでほしい」など	17 (0)
			-	特になし・わからない	208 (193)

高校生/大人（700人）上位5項目

自分自身や身の回りのこと		回答件数 ()内は2024年	社会や世の中のこと		回答件数 ()内は2024年
1	自分自身や家族の健康 「健康に過ごしたい」「自分と周囲の健康が維持されると良い」など	95 (91)	1	物価が下がる 「物価高が収まる」「これ以上物価が上がらないで欲しい」など	105 (87)
2	旅行をする/遊びに行く 「家族で旅行に行きたい」「国内旅行はもちろん、海外旅行にも行きたい」など	68 (59)	2	景気が良くなる 「景気が良くなるといい」「日本が豊かになるように」など	84 (75)
3	収入アップ/貯金・貯蓄・資産運用をする 「給料が上がって欲しい」「資産を着実に確実に増やすこと」など	53 (63)	3	平和で戦争のない世界になる 「戦争・侵略のない世界であってほしい」「世界平和」など	79 (81)
4	仕事をがんばる/仕事のスキルアップ・キャリアアップ 「仕事のレベルアップ」「フリーランスになる」など	49 (47)	4	政治が良くなる 「政治家がしっかり働き前進する社会を実現させて欲しい」「日本の政治が良くなっていくことを願います」など	61 (51)
5	精神的に充足する 「充実した毎日」「平穩に過ごしたい」など	37 (43)	5	減税や給付金などの家計支援 「税金を下げる」「ガスと電気代を政府が負担してくれる」など	35 (21)
-	特になし・わからない	132 (119)	-	特になし・わからない	165 (180)

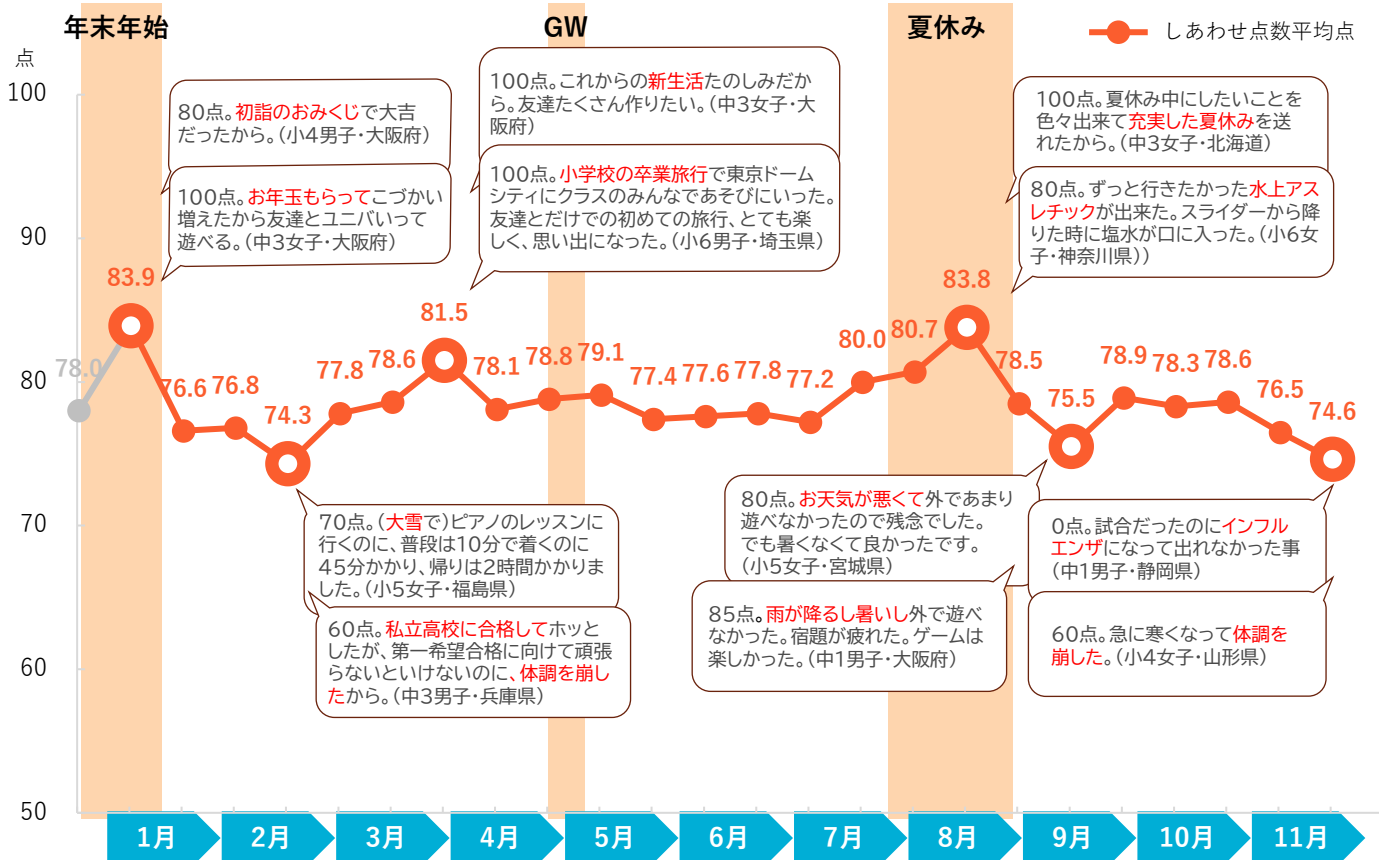
1年間のしあわせ点数推移（隔週調査「いまの気分」調査より）

- 博報堂教育財団こども研究所では、小4～中3生300名を対象に「前週の心に残ったできごと」や「しあわせ点数とその理由」などを聴取する「いまの気分」調査を実施しています。子どもの「いま」を知るとともに、隔週で調査することで、1年間の子どもの心の動きや、それに影響している要因を明らかにすることを目的としています。
- ここでは、2025年1月～11月までのしあわせ点数平均点の推移と、象徴的なコメントを取り上げました。
- 「2025年の気分」調査では、小4～中3生のしあわせ点数の平均点は82.7点でしたが、「いまの気分」調査での年間※の平均点は78.4点で、「2025年の気分」調査の結果よりも-4.3pt低い値でした。短期的にはいろいろありながらも、改めて一年を振り返ってみると楽しかったできごとが思い起こされているようです。
- 今年※のしあわせ点数で最も平均点が高かったのは、1月5日調査の83.9点でした。2月に入ると受験シーズンや天候不良などで点数は下がりますが、3月終わりになると学期末のイベントや新学期が始まるわくわく感で再び上がります。夏休みは点数が高くなり、9月に新学期が始まると下がるのは例年通りですが、今年は天気が不安定だったことも影響したようで、9月初旬から半ばにかけて点数は下降しました。その後いったん上がったものの、11月はインフルエンザの流行で自分や周囲の人が体調を崩したといった声があり、また下がっていきます。
- 2017年10月から最新のしあわせ点数の推移を始めとする「いまの気分調査」の結果は、こども研究所のサイトからご覧いただけます。（<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>）

※2025年1月5日～11月23日の「いまの気分」調査の結果

Q. 前週一週間であなたは自分のことをどれくらい「しあわせ」だと感じましたか。「すごくしあわせ」を100点、「まったくしあわせではない」を0点としたときに、100点満点で教えてください

■ 全体（小4～中3）



「いまの気分」調査概要

調査エリア：全国

調査時期：隔週日曜日

調査対象：小4～中3男女 300人

調査方法：インターネット調査

子どもの調査にあたっては事前に保護者の承諾を得て行っています。

調査結果に関する研究員コメント

今回の「2025年の気分」調査は、こども研究所が隔週で行っている「いまの気分」調査を、もっと多くの方にご覧いただくための年末特別編として、昨年の「2024年の気分」調査に引き続き2年連続で実施しました。

いつもは小4～中3生のみに聞いている“しあわせ点数”ですが、他の層と比較すると、かなり高い点数であることが改めてわかります。

「来年の世の中に対する期待や願望」で、高校生/大人の「物価が下がる」ことが最も多かったのは、生活に直結する切実な問題としてうなずける結果ですが、小中学生でも「平和で戦争のない世界になる」ことに次いで2番目に多く挙がりました。「米が安くなってほしい」「お菓子が高い」といった回答から、身近なものの価格高騰を通して、子どもたちが物価高を肌で感じている様子が見られました。

「2025年の気分」調査概要

- ◆調査手法：インターネット調査
- ◆調査実施日：2025年11月16日(日)
- ◆調査エリア：全国
- ◆実施・集計：QO株式会社
- ◆調査対象者：小学4年生～中学3年生男女 600人
- ◆調査パネル：株式会社マクロミル
- ◆企画・分析：公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所

小学4年生～中学3年生 (人)

学年	性別		計
	男子	女子	
小学4年生	50	50	100
小学5年生	50	50	100
小学6年生	50	50	100
中学1年生	50	50	100
中学2年生	50	50	100
中学3年生	50	50	100
合計	300	300	600

15～79歳 (人)

年代	性別		計
	男性	女性	
15～19歳	50	50	100
20代	50	50	100
30代	50	50	100
40代	50	50	100
50代	50	50	100
60代	50	50	100
70代	50	50	100
合計	350	350	700

子どもの調査にあたっては事前に保護者の承諾を得て行っています。

※「2024年の気分」調査概要

調査対象者：小学4年生～中学3年生男女 600人 15～79歳男女 700人

調査実施日：2024年11月17日(日)

公益財団法人 博報堂教育財団／こども研究所について

【公益財団法人 博報堂教育財団】

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、あわせてその活動に関する調査研究を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生いたしました。その後、2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しました。

設立から50年以上を経た今日では、「子ども・ことば・教育」を活動領域ととらえ、設立以来の事業である、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」「海外の子どもたちとの日本語交流や日本語教育支援」「社会啓発事業」「調査研究事業」など、さまざまな活動を行なっています。

【こども研究所】

博報堂教育財団こども研究所は、弊財団の調査研究事業の一環で、2017年に設立されました。独自の調査や実験的な取り組みによって子どもの姿をありのままに捉え、子どもたちの可能性について新たな発見をし、それを社会と共有することで、子どもに対する見方やイメージの枠を広げていくことを目指しています。

こども研究所ホームページでは、調査研究の結果を広く公開しています。

<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>



本件に関するお問い合わせ

■ 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所 島津・亀田

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/contact/> (財団お問い合わせページ)